

自筆資料に見る南方熊楠……………10

「十二支考」中のメキシコ原住民の竜

文／松居竜五(南方熊楠顕彰会理事・龍谷大学准教授)

南方熊楠が雑誌『太陽』に書き続けた「十二支考」には、一般誌らしく読者の興味を誘うような挿図が多く用いられている。特に、辰歳に発表された「田原藤太竜宮入りの譚」(1916年)には、竜という架空の生物が題材とされていることもあってか、シリーズ中最多の32枚が使われた。その第一図として掲載されているのが、まるで竜のような威容を備えたメキシコのガラガラヘビを描いた図Aである。この図について、熊楠は本文中で次のように解説を加えている。

仏人サミュール・ド・シャムブレーンの『^{ブラチウス・オウ・ア・ウォエージ・ツ・ゾ・のエスト・インジス、}西印度航記』(1859年英訳)を見るに、メキシコの響尾蛇の頭に両羽あり、またその地に竜を産し、鷲の頭、蜥蜴の身、蝙蝠の翅で、ただ二大脚あり大いさ羊のごとく、姿怖ろしけれど害をなさぬとあった。よってかの国にも、古来蛇、蜥蜴などを誇張して、竜の属の想像動物を拵えあったと知った(全集1巻105頁)。

ここで紹介されているシャムブレーン(Samuel de Champlain, 1567-1635)はフランスの探検家で、現在のカナダ・ケベック市の基礎を築いた人物として知られている。大西洋岸の港町の船乗り一家に生まれたシャムブレーンは、軍隊経験の後、叔父の伝手でスペイン船の指揮を任せられ、1599～1602年に西インド諸島から中米の探検を行い、その記録を上述の本としてまとめた。そこには、当時のヨーロッパでは未知の部分が多かった新大陸の動植物のことが紹介されている。

この本の英訳版(ハクルート叢書No.23)から、熊楠が「ロンドン抜書」第40巻裏103頁に抜き書きしたのが図Bである。この部分の日付は前後の書き込みから1900年3月23日～26日の間と推測されるので、大英博物館を追放された後の、自然史博物館かサウスケンジントン博物館の図書館での筆写と思われる。本の表題を写した後、すぐにこの図の模写にとりかかっているから、同書の中でもっとも関心を引かれた箇所だったのであろう。図の直後の箇所には[響尾蛇Crotalus][但シthe horned snakeト混セリ]という書き込みがあり、ガラガラヘビとツノヘビのイメージからこの図のイメージが形作られたと、熊楠は推測している。

図Cはその英訳版の中の写真であり、図Bと見比べると熊楠が巧みに特徴をつかみつつ、自分流のアレンジを加えて模写をしていることがわかる。そして図Aはその15年後に『太陽』掲載のためにあらためて「ロンドン抜書」から描き起こしたものであることになる。「十二支考」の挿図の多くは、友人の川島友吉によるものであるから、この図も川島が熊楠の依頼を受けて模写したのかもしれない。当時の熊楠の日記には、1915年12月26日の条に「午後川島氏招ク来リ、書籍六冊渡シ、自宅へ持行、画力キ貴フ、龍ノ話ノ挿画也」という記述がある。

実は、熊楠が「十二支考」の「竜」の回に、西洋文明とも中国文明とも隔絶したメキシコのガラガラヘビを取り上げたことには伏線がある。1903年7月18日の土宜法龍宛書簡では、「また全く旧世界の開化と距離反対せるメキシコ国ですら、その十二支は全く支那と同じことで、ただ虎が西大陸にないから、その代りに豹、竜というものは考え及ばぬと見て、その反りに響尾蛇あるのみ。その響尾蛇のモザイク(組立て石)を見しに、予は講釈きくまでは全く東洋人のかかし竜と思うほど似おれり(ただし足なし)」(全集7巻381頁)とその理由について述べているのである。

つまり熊楠は、実在の生物から竜のような架空の生物が空想されるにあたって、人間の想像力に文化の差異を超えた一定のパターンがあると考えたわけである。そしてシャムブレーンの記述も、メキシコ原住民の伝承に何らかの影響を受けたものであると見ているのであろう。「これにて、人間の想像の区域に大抵限りあり、材料に定数のあることを知るべし」(同382頁)と、熊楠はこの議論を締めくくっている。



図A



図B



図C

CONTENTS	
第22回南方熊楠賞 受賞者決まる	… 2
第8回南方熊楠ゼミナール	… 3
基調講演 中塚俊之	… 4
研究発表① 奥山直司	…14
研究発表② 唐澤太輔	…18
熊楠をもっと知ろう! アメリカ時代の南方熊楠 松居竜五	…23
熊楠をもっと知ろう! パネルディスカッション	…30
南方熊楠シンポジウム 参加報告 杉山和也	…41
南方熊楠と同級生たち(新シリーズ) 瀧岸宏一、中瀬喜陽、杉山和也、田村義也	…42
第12回特別企画展 案内 郷間秀夫	…48
白井光太郎日記に記された南方熊楠関係抜書 郷間秀夫	…50
書簡の杜(六) 岸本昌也	…56
新刊紹介・書評 吉川史子、瀧岸宏一、田村義也	…58
「熊楠」生物覚え書⑮ 土永知子	…61
熊楠メモランダム《3》 志村真幸	…62
海辺のクマグス 第一回(新シリーズ) 安田忠典	…63
南方熊楠研究奨励事業 平成24年度募集!	…64